

上ノ村城(別名無)(指定無)(津市白山町上ノ村字林)

所在地：津市白山町上ノ村字林

遺構等：曲輪、土塁、空堀、堀切

現状：山林、稻荷社

築城年：明応年間(1492-1501)

築城者：新長門守

形式：平山城(比 16m)

道案内：国道165号で大村川を西へ渡り、渡ってすぐの路地を右折し、1本目の路地を左折すると正面に「成願寺」があります。この成願寺の背後、道を挟んだ西側の小山が城跡です。お寺の正面にも駐車場がありますが、2本目の路地を左折した右手にも駐車場があるので、後者のほうがお城へ行くには近いです。

感想：成願寺の東側道路(2本目の路地)を北へ行くと、成願寺西北側にも道があります。ここを通り過ぎてもう少し西北へ歩くと左手に田んぼがあり電信柱のすぐ横から山へ入っていく道があります。ここから道なりに左カーブして左手の山に登ると城跡です。虎口がしっかりあり、その奥には曲輪があつて土塁が巡っています。そこから一段高い主郭へ行くと神社になっていました。この神社の奥にはかなり深い堀切があつて見応えがあります。明応年間(1492-1501)、北島の臣・新長門守が築城した。

「ちえぞー!城行こまいによる」

築城舎：新長門守(にいながとのかみ) 経成

遺構：郭、土塁、空堀、堀切

歴史 戦乱で長男・次男を失いまた一族の菩提を弔うため 真盛上人に帰依し真九郎と称し成願寺建立の発願者になった。

明応2年(1493)10月から翌年に掛けて成願寺が完成し真盛上人は当寺を拠点として各地で布教した。しかし、永禄・天正の頃になると小倭党の小泉氏領すと記されていることからすでに北島末期には新氏の勢力は衰退していたと考えられる。

現地：成願寺の裏山に城はある。堀切は深くきれいに残っている。土塁も幅高さ共に大型である。

感想：城は小型だが急斜面に囲まれ攻めにくい。

「山城遺産」による

